

# 馬産地ライター村本浩平の 2018 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 1 | 4.18 [水] ▶ 6.21 [木] 開催分



**4.25**  
[水]

**ゴールドシップ賞**  
【コスモバルク記念 [H3]】

ゴールドシップは2009年産まれで日高町・出口牧場の生産馬。父はステイゴールド、母はポイントフラッグ(母の父メジロマックイーン)。現役時は2歳~6歳時に日、仏で28戦13勝をあげており、3歳時には皐月賞、菊花賞を優勝。その後の有馬記念では古馬を一蹴してみせます。4歳時、5歳時にも宝塚記念を連覇。6歳時には天皇賞・春を優勝と、長きに渡って芝の中長距離GⅠ戦線を沸かせてきました。引退後の2016年シーズンから、新冠町・ビッグレッドファームにて繋養。繋養初年度には109頭、2017年にも110頭の繁殖牝馬を集める安定した人気を誇っています。父ステイゴールド×母メジロマックイーンは「黄金配合」としても多くの活躍馬が誕生しており、この配合で先に種牡馬となったオルフェーヴルは、初年度産駒から阪神JFの勝ち馬となった、ラッキーライラック(牝3)を送り出しており、自身の産駒デビューも待ち遠しいです。

**5.23**  
[水]

**ホッコータルマエ賞**  
【赤レンガ記念 [H3]】

ホッコータルマエは2009年産まれで浦河町・市川ファームの生産馬。父はキングカメハメハ、母はマダムチェロキー(母の父Cherokee Run)。現役時は3歳~7歳時に日、UAEで39戦17勝をあげており、4歳時のかしわ記念でJpnⅠ初勝利をあげると、その後も帝王賞、JBCクラシック、東京大賞典とこの年だけでGⅠ/JpnⅠを4勝。5歳時以降も初の中央GⅠ勝利となるチャンピオンズCだけでなく、川崎記念を3連覇するなどの活躍でGⅠ/JpnⅠ勝利を10勝まで積み上げました。引退後の2017年シーズンから、浦河町・優駿スタリオンステーションにて繋養。繋養初年度には164頭の繁殖牝馬を集めました。キングカメハメハの後継種牡馬となりますが、ダートで見せた圧倒的な能力の高さだけでなく、血統内にサンデーサイレンスの血を持たないことも、アウトクロスの配合馬を作る上では大きなアドバンテージとなりそうです。

**5.30**  
[水]

**ダンカーク賞**  
【北斗盃 [H3]】

初年度  
産駒  
デビュー

ダンカークは2006年産まれで米国産馬。父はUnbridled's Song、母はSecret Status(母の父A.P. Indy)。現役時は3歳時に米国で5戦2勝。重賞勝利こそありませんが、米三冠クラシックのベルモントSで、後に日本へ導入されるサマーバードの2着。フロリダダービーでも2着となるなど、GⅠレースで好走を見せました。引退後の2010年から米国で繋養。初年度産駒からHavana(GⅠ米シャンペインS)をはじめ、次々と重賞馬を輩出し、2013年度の北米新種牡馬チャンピオンに輝きます。チリでも産駒がGⅠレースでワンツーフィニッシュを果たすなど、産駒はワールドワイドな活躍を続け、日本に輸入された産駒も早い時期からの勝ち上がりで、仕上がりの良さとスピード能力の高さを証明します。2015年シーズンから浦河町・イーストスタッドにて繋養。繋養初年度は150頭、2016年は119頭、2017年は91頭の配合を行っています。

**6.20**  
[水]

**イスラボニータ賞**  
【北海優駿(ダービー) [H1]】

新種牡馬

イスラボニータは2011年産まれで白老町・白老ファームの生産馬。父はフジキセキ、母はイスラコジーン(母の父Cozzene)。現役時は2歳~6歳時に日本で25戦8勝をあげており、2歳時の東京スポーツ杯2歳Sで初重賞制覇をレコードで飾ると、3歳時には共同通信杯に続き、皐月賞で初GⅠ制覇。その後は日本ダービー、マイルCSで2着とGⅠでは惜しいレースが続いていきますが、セントライト記念、マイラーズCに優勝と重賞戦線を沸かし続け、ラストランとなった6歳時の阪神Cもレコード勝ちで有終の美を飾ります。2018年シーズンから安平町・社台スタリオンステーションにて繋養。父フジキセキの後継種牡馬(カネヒキリ、キンシャサノキセキ、ダノンジャンティ)からは、中央の重賞勝ち馬が送り出されており、自身の競争成績にも証明された絶対的なスピード能力からしても、種牡馬としての成功は間違いなさそうです。

**6.21**  
[木]

**マジェスティックウォリアー賞**  
【ヒダカソウカップ [H2]】

マジェスティックウォリアーは2005年産まれで米国産馬。父はA.P. Indy、母はDream Supreme(Seeking the Gold)。現役時は2~3歳時に米国で7戦2勝。3歳時のホープフルSで初重賞制覇と初GⅠ制覇をともに飾ります。引退後の2008年から米国で繋養。Princess of SylmarがCCAオークスなどGⅠレースで4勝をあげる活躍もあり、2013年には北米セカンドクロップサイアーの首位にも輝きます。日本に輸入されたベストウォーリアも、4歳時と5歳時のマイルCS南部杯でJpnⅠ連覇するなど、産駒は日本競馬への適性の高さも証明していきます。2016年シーズンから浦河町・イーストスタッドにて繋養。繋養初年度には127頭、2017年シーズンには113頭の繁殖牝馬を集めました。ベストウォーリアの活躍にも証明されているように、産駒はダート適性の高さだけでなく、類い希な成長力と健康さも遺伝されていきそうです。

**門別5回**  
(日程未定)

**オウケンブルースリ賞**

オウケンブルースリは2005年産まれで早来町・ノーザンファームの生産馬。父はジャングルポケット、母はシルバージョイ(母の父Silver Deputy)。現役時は日本で27戦5勝。3歳時に菊花賞で初重賞制覇を初GⅠ制覇で飾って見せましたが、デビューから184日目での菊花賞制覇は史上最短記録にもなりました。4歳時にも京都大賞典を優勝し、その年のジャパンCでは2着に入るなど一線級で活躍しました。2013年から浦河町・イーストスタッドにて繋養。繋養初年度は23頭の繁殖牝馬を集めるも、2014年は12頭、2015年からは種付け頭数を一桁台に減らしていき、2017年は1頭の配合しか行っていませんでした。しかし、僅か7頭しかいなかった2世代目産駒のオウケンムーンが、今年共同通信杯を優勝。一躍クラシック候補に躍り出ました。今シーズンは配合牝馬の増加も見込まれており、オウケンムーンには父仔菊花賞制覇の期待もかかります。

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャンプブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年度種付権利を副賞として贈呈する競走です。 ※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

